

Title	戦略提携の成功要因
Sub Title	
Author	高橋, 裕子 浅川, 和宏
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2002
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2002年度経営学 第1787号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002002-1787

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	浅川 研究会	学籍番号	80128536	氏名	高橋 裕子
(論文題名)					
戦略提携の成功要因					
(内容の要旨)					
<p>近年の組織を取り巻くグローバル化の進展、技術革新の急速な展開に代表される環境の変化は、自社の能力だけでなく他社能力の活用をますます高めている。そのための手段としてアライアンスが重要となっており今後ますます実践的に必要性が増すと考えられる。このような状況を踏まえ、アライアンスが成功するための要因、特に学習目的のアライアンスのマネジメント要因を導出することは、今日の経営課題として重要であると考えられる。アライアンスにおいては、どのような目的で、いかにアライアンスが形成され、実行されるのか、その後どのように変化・進化していくのかについて考えられなければならない。そして、それぞれの局面が複合的にアライアンスの成功に影響を及ぼすと考えられる。特に、初期の形態とその後のマネジメントの仕方、知識の移転の両面が成功に大きな及ぼすと考えられる。しかし、過去の論文において、多くの研究はformationのパターンや戦略提携の初期の特徴がパフォーマンスに与える影響に偏った研究が多い。また、アライアンス形成後の学習効果の重要性は認識されているが、事例研究が多く実証研究は少ない。</p> <p>私は、この研究において戦略提携後の組織間の学習や知識移転のマネジメントに着目した研究を行い、アライアンスが成功する要因を実証分析した。学習目的の戦略提携においては、アライアンスパートナーから有益な情報やノウハウを獲得し、内部化し組織内に蓄積していくことができる。しかし一方で、企業が所有する能力やスキルを潜在的な競争者であるアライアンスパートナーに吸収され、利己的な行動を取られるリスクがある。いったい企業はどのようにパートナーからのノウハウや経験を獲得することとパートナーへの自社のコア・コンピタンスを失うという緊張関係のバランスを取っているのだろうか。</p> <p>今回の研究により、研究開発の提携において学習という目的を達成させるための主な要因は、Relational Capital (関係性資本) と統合的なコンフリクトマネジメントであることが証明された。しかし一方で、これらの要因は、所有コア資産の防御の主な要因にはならないということが分かった。グローバルな競争が激化している今日に勝ち残っていくためには、一時的に自社のコア・コンピタンスを失う危険を冒しても外部との提携を行い、お互いに技術・リソースをシェアしてイノベーションをおこし新たなコア・コンピタンスを形成していく必要があると考えられる。</p>					